

第3節 結果 - 回答者の属性

1. 回答の状況

有効回答者数は413人だった。これを回答方法で分けると、電子メールによる回答者が322人と最も多く、78.0%を占めた。郵送による回答者数は55人(13.3%)、そのうち点字版の回答者数は31人、郵送による拡大印刷版の回答者数は24人だった。筑波技術大学では36人の学生に回答してもらった(8.7%)。そのうち点字版による回答が9人、拡大印刷版による回答が27人だった(以上、図1-3-1)。

回答媒体で分類すると、電子メールによる電子テキストが322人(78.0%)、拡大版による回答が51人(12.3%)、点字版による回答が40人(9.7%)となった(図1-3-2)。

回答者数が多かったメーリングリスト/メールマガジン五つを挙げると、最も回答数が多かったのは視覚障害メーリングリスト jarvi-ml で52人、次いでたこ通信(名古屋盲人情報文化センターが配信するメルマガ)が41人、3番目はWindows活用MLで28人、4番目はタートルメーリングリストで18人、5番目はメディア・ナウで16人だった。

点字版と拡大印刷版の回答が多かった施設等は、名古屋盲人情報文化センター(点字:11人、拡大:6人)、日本点字図書館(点字:9人、拡大:5人)、盲学校の同窓会で調査票を配布して下さった長野県の方(点字:4人、拡大:6人)の順であった。

回答者数が多かった都道府県は、1番目は愛知県で87人、2番目は東京都で50人、3番目は大阪府と神奈川県でともに22人、4番目は埼玉県と兵庫県でともに18人、5番目は長野県で11人だった。

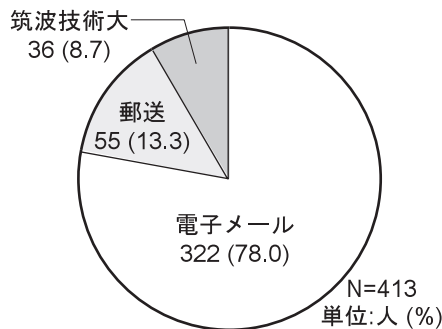


図 1-3-1 回答手段

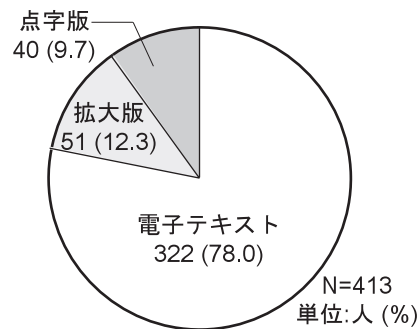


図 1-3-2 回答媒体

2. 年齢分布

回答者の年齢は14歳から80歳の範囲に分布し、平均は45.8歳だった。図1-3-3に示すように40歳代と50歳代を中心とした釣り鐘型の分布となっている。

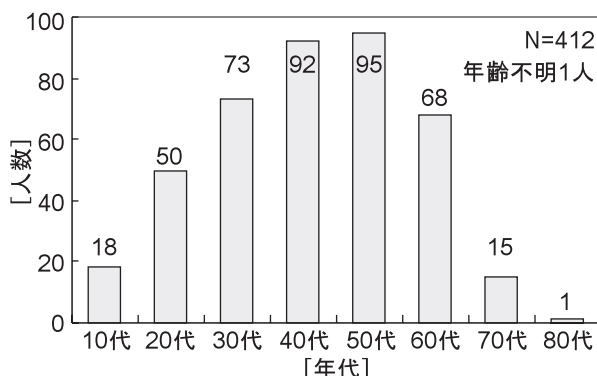


図 1-3-3 回答者の年齢分布

3. 障害等級と視覚的な文字処理の可否

障害等級ごとの回答者数を図1-3-4に示した。障害等級1級（285人）と2級（89人）という重度視覚障害者が90.6%を占めた。体幹または聴覚の障害と併せて1級の方が5人いたが、ここでは視覚障害の等級に従って分類した。

視覚を使って文字を読み書きできるかどうかによって、機器の利用状況や利用上のニーズが変化すると推測される。そこで視覚的な文字の読み書きの可否を尋ねたところ、できると答えた人が125人（30.3%）、できないと答えた人が288人（69.7%）であった（図1-3-5）。なお、文字の読み書きができる／できないの判断は回答者に委ねた。また、未回答ではあったが、拡大版で回答されたため、調査者側で「できる」と判断した例が1件あった。

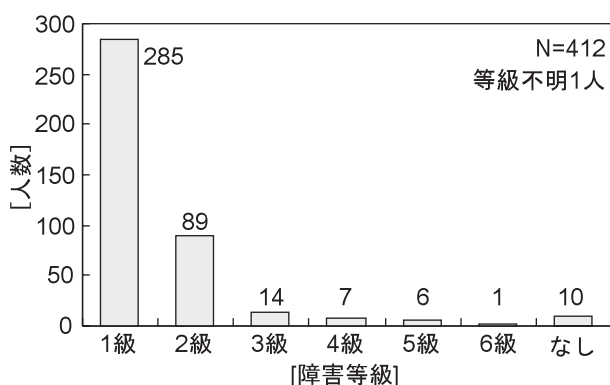


図 1-3-4 回答者の障害等級の分布

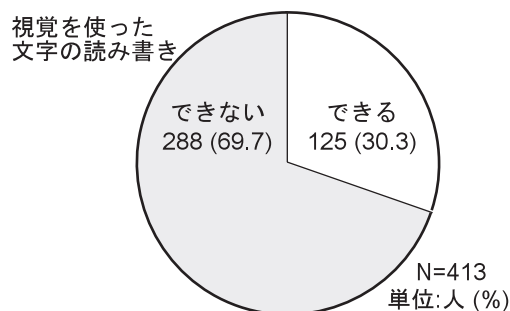


図 1-3-5 回答者の視覚的な文字処理の可否

障害等級と視覚的な文字の読み書きの可否の関係を見たところ、障害等級1級285人の中で視覚的に文字を利用できると答えた人は30人(10.5%)にとどまるが、同2級89人では60人(67.4%)と比率が逆転した。同3級～6級28人のうち24人(85.7%)が視覚的な文字の読み書きができると答えた。手帳を持っていない10人は全員、視覚的な文字の読み書きができると答えた(以上、図1-3-6)。

年代別に見た障害等級の割合を図1-3-7に示す。3級から6級は人数が少ないため一つの区分にまとめた。同様に80代は1人のため70代の区分にまとめた。10代では2級の割合が最も高く(38.9%)、次に障害者手帳を持たない人の割合が高い(27.8%)。1級の割合は16.7%と小さい。20代から70・80代ではおしなべて、1級の割合が大部分を占め(68.4～78.1%)、次に2級の割合が高い(12.2～25.0%)という様相を呈している。

同様に、年代別に見た視覚的な文字の読み書きの可否の割合を図1-3-8に示す。10代では、視覚的に文字を読み書きできると答えた人の割合が高いが(72.2% vs. 27.8%)、20代から70・80代では視覚的に文字を読み書きできないと答えた人の割合の方が高くなる(62.0～77.9%)。

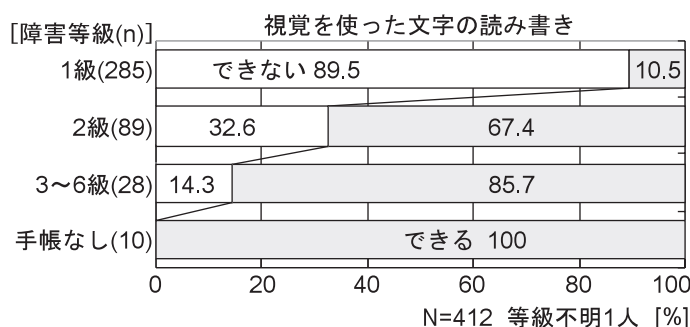


図 1-3-6 障害等級別に見た視覚的な文字の読み書きの可否の割合

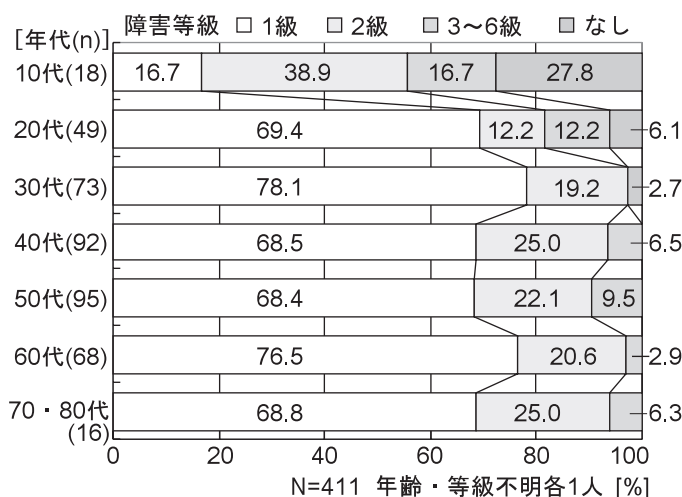


図 1-3-7 年代別に見た障害等級の割合

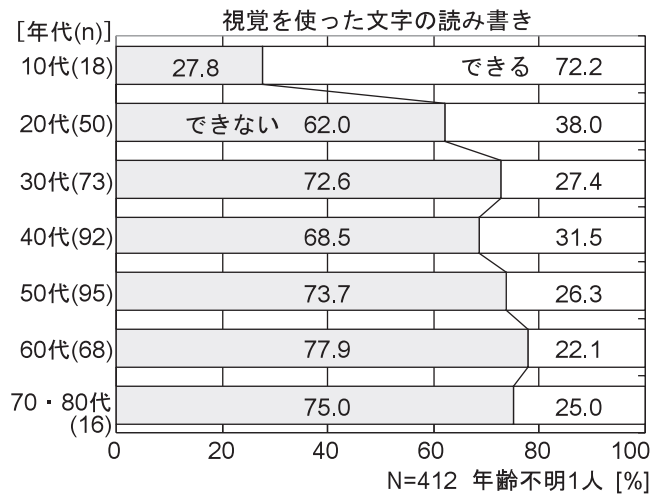


図 1-3-8 年代別に見た視覚的な文字の読み書きの可否の割合

4. 職業情報

勤め先への回答情報を基に、仕事に就いている／就いていない／学生の3分類の円グラフを作成した(図 1-3-9)。回答者のうち 241 人(58.4%)が仕事に就いていた。仕事に就いていない人は 126 人(30.5%)だった。学生は 46 人(11.1%)、そのうち筑波技術大の学生が 36 人である。なお、その他への回答で具体的に(専業)主婦とあった回答は、勤め先ではないという理由から、仕事に就いていないに分類し直した(該当数 11 人)。

就業状況を年代ごとに見たのが図 1-3-10 である。10 代では学生が 94.4%を占める。20 代では学生と就業者がほぼ均衡し(42.0% vs. 38.0%)、仕事に就いていない人の割合は 20.0%であった。30 代から 50 代では就業者が大部分を占める(72.6~73.9%)。60 代と 70・80 代では、仕事に就いていない人の割合の方が高くなった(64.7%と 68.8%)。

図 1-3-11 の横棒グラフは、18 歳から 65 歳までの回答者(60 代とした 1 人は除いた)から学生を除いた人を視覚的な文字の読み書きの可否で 2 群に分け、各群内における就業の割合を見たものである(N=326)。今回の回答者の中では、視覚的な文字の読み書きの可否による就業率の大きな違いは見られず、視覚的な文字の読み書きができないと答えた人の方が就業率はむしろ高かった(66.7% vs. 71.5%)。なお、視覚的な文字の読み書きができると答えた 84 人の平均年齢は 46.5 歳、できないと答えた 242 人は 46.0 歳で、両群間で年齢的な差はわずかだった。

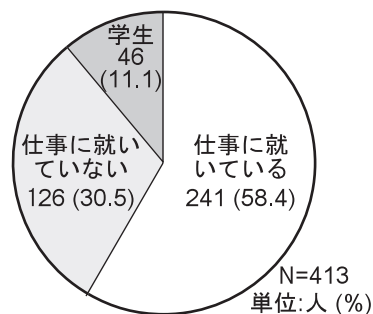


図 1-3-9 回答者の就業状況

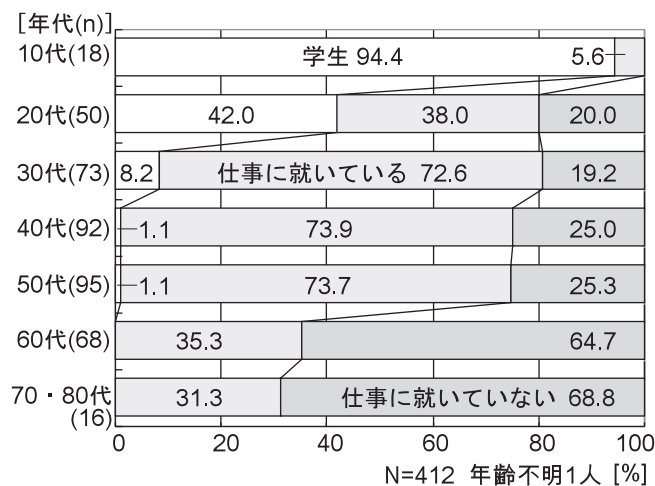


図 1-3-10 年代別に見た就業状況

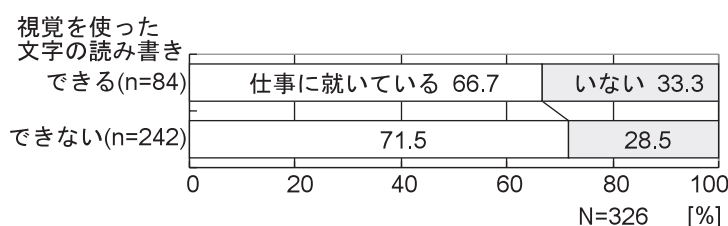


図 1-3-11 視覚的な文字の読み書きの可否別に見た就業状況

仕事に就いている人 241 人のうち 5 人が複数の勤め先を回答した。回答者の勤め先を図 1-3-12 に示す。自営が最も多く 76 人 (31.5%)、これに大学及びその他学校 46 人 (19.1%) と民間企業 38 人 (15.8%)、病院及び治療院 30 人 (12.4%) が続いて、これらで就業者の約 4 分の 3 を占めた。百分率は、仕事に就いている人 241 人を分母として計算した。

職種への回答者数は 233 人、そのうち 4 人が複数の職種を回答した (図 1-3-13)。回答者の職種は多い順から、理療が 103 人 (42.7%)、教員が 50 人 (20.7%)、技術職が 29 人 (12.0%)、事務職が 24 人 (10.0%)、その他 31 人 (12.9%) であった。百分率は、仕事に就いている人 241 人を分母として計算した。

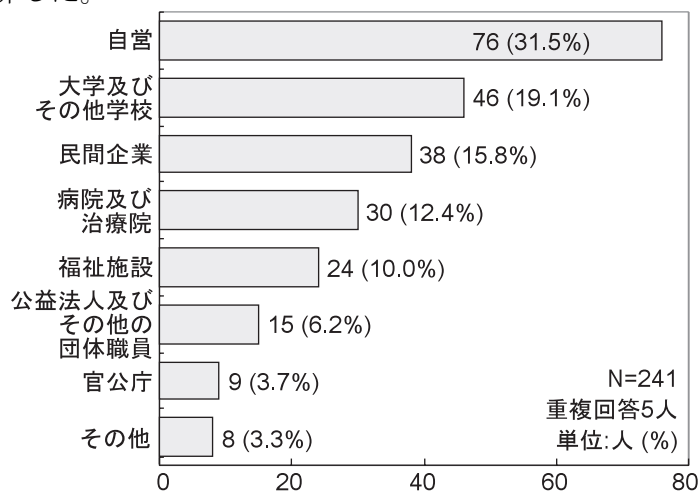


図 1-3-12 回答者の勤め先

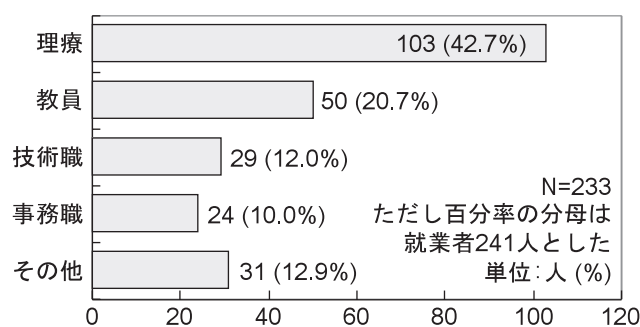


図 1-3-13 回答者の職種

その他の職種の内容と人数は以下の通りである。点字の図書製作・校正・指導：4人，視覚障害相談業務：3人，会社等経営：3人，パソコンの指導：2人，テープ起こし：2人，介護支援専門員：2人，芸能関係の仕事で落語家，演奏家，アーティストが各1人，福祉関係の仕事で盲ろう者団体役員と福祉職が各1人，上記以外で図書館司書，電話交換手，医師，研究職，サウンドスケープデザイナー，外国業務のサポート，出版とリサイクル業，不動産運営，接客，専門職，各1人。

5. 携帯電話，パソコン，インターネットの利用状況

3種類のICTの利用者数は，携帯電話が380人(92.0%)，パソコンが391人(94.7%)，パソコンを介したインターネットが386人(93.5%)だった。携帯電話とパソコンいずれかの機器を利用する人，つまり回答者のICT利用率は411人(99.5%)となった。逆に，いずれも利用していない人は2人(0.5%)だった。携帯電話，パソコン，インターネット全てを利用する人は355人(86.0%)，携帯電話とパソコンを利用する人は360人(87.2%)，パソコン及びインターネットを利用するが携帯電話を利用しない人は31人(7.5%)，逆に携帯電話を利用するがパソコンを利用しない人は20人(4.8%)だった。携帯電話とパソコンのどちらかのみを利用する人は少なく，両方とも使う人が大部分を占めた。この利用状況を表したのが表1-3-1である。

表 1-3-1 回答者の携帯電話，パソコン，インターネット利用状況

		パソコン		
		利用する 391人(94.7%)		利用しない 22人(5.3%)
		インターネット		
				利用する 386人(93.5%)
携帯電話	利用する 380人(92.0%)	355人 (86.0%)	5人(1.2%)	20人(4.8%)
	利用しない 33人(8.0%)	31人(7.5%)	0人	2人(0.5%)